

## 別添様式3

## 介護職員初任者研修カリキュラム

事業者名 株式会社 アイシマ

研修事業の名称 あいしまホームヘルパーカレッジ 介護職員初任者研修(通学)

1 職務の理解( 6 時間)		
項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①多様なサービスと理解	2 時間	(講義内容) ・ 介護職が働くサービス現場にどのようなものがあるか、介護保険サービス(居宅・施設)とそれ以外(障害者(児)サービス等)について理解する。
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4 時間	(講義内容) ・ 居宅・施設の多様な働く現場における仕事内容や、実際のサービス提供現場の具体的なイメージができるよう、視聴覚教材の活用などにより理解する。 ・ ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の流れとチームアプローチ・他職種、地域の社会資源との連携を理解する。 (演習内容) ・ 検討事例を提示し、介護職の仕事内容が具体的にイメージできるよう小グループでの討議などを実施しグループ毎に発表後講師が講評する。
合計	6	
2 介護における尊厳の保持・自立支援( 9 時間)		
①人権と尊厳を支える介護	5 時間	(講義内容) ・ 利用者とはどのような人々なのか、具体的事例を示し対象を理解する。 ・ 個人としての尊重や 利用者のプライバシー保護などを通して尊厳の保持を学習し、それを支えるためのケアを理解する。 ・ ICF の目的や介護分野における ICF の考え方を具体的事例で理解する。 ・ ノーマライゼーションの意味を学び、それを実現するための支援を視聴覚教材などを用いて理解する。 ・ 虐待の定義や身体拘束禁止について事例などを通して学習し、介護員としての基本的視点を理解する。また制度としての高齢者虐待防止法や地域ネットワークの必要性を理解する。 ・ 尊厳の保持に関連した、個人情報保護法、成年後見制度や日常生活自立支援事業など、介護保険制度上の仕組みや規程を理解する。 (演習内容) ・ 尊厳を支えることの意義や対応が具体的にイメージできるよう小グループでの討議を実施し介護員としての役割を深め、グループ毎に発表後講師が講評する。
②自立に向けた介護	4 時間	(講義内容) ・ 自立・自律の意味を学び、介護保険法の基本理念である自立支援について理解する。 ・ 残存能力を効果的に活用するための具体的事例を示し、自立支援の重要性や意義などについて理解する。 ・ 人間における動機と欲求または個性や個別ケアの意味を学習し、意欲を高める支援を理解する。 ・ 介護予防の考え方を学習し、寝たきり予防について視聴覚教材などで理解する。
合計	9	
3 介護の基本( 6 時間)		
①介護職の役割、専門職と多職種との連携	1 時間	(講義内容) ・ 施設と居宅の介護環境の特性を理解し、地域包括ケアシステムの役割と機能を理解する。 ・ 利用者の重度化・遅延化を予防するための具体的事例を通して予防的介護や、自立した生活を支えるための援助を学習し、介護の専門性について理解する。 ・ 介護支援専門員やサービス提供責任者、看護師など他職種を理解し、利用者を支えるチームケアについて学習を深め、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供を理解する。

②介護職の職業倫理	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職としての倫理の意義や介護の倫理を学習し職業倫理について理解する。</li> <li>・ プライバシーの保護など利用者・家族に対する責任を学習し、地域社会における介護職の役割を理解する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者への対応場面など具体的事例を通して介護の仕事は、知識・技術だけではなく高い倫理性が必要であることを小グループでの検討し、発表後講師が講評し理解を深める。</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リスクマネジメントの考え方を学習し、リスク分析の方法や視点を理解する。</li> <li>・ 介護現場における事故の要因を探り、リスク対応の具体的実践例を示し、安全管理体制の重要性を理解する。</li> <li>・ 事故発生時の対応と報告の仕方を学習し、情報共有の大切さを理解する。</li> <li>・ 感染の原因と経路について視聴覚教材などで理解する。</li> <li>・ 感染症対策などについて学習し、感染に対する正しい知識を習得する。</li> </ul>
④介護職の安全	1時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職の健康管理が介護の質に影響することを学習し、介護職に起こりやすい健康障害とその予防について具体的事例を示し理解する。</li> <li>・ 手洗い・うがいの重要性や手洗いの基本の実技演習などで理解する。</li> <li>・ ストレスマネジメントについて学習をする。</li> </ul>
合計	6	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携( 9 時間)		
①介護保健制度	3時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「介護の社会化」がなぜ必要だったのか、介護保険制度の位置づけを学習し、各サービスの役割を理解する。</li> <li>・ 予防重視型システムの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進といった介護保険制度の新しい方向性を理解する。</li> <li>・ 保険者、被保険者、保険給付などの介護保険制度の基本的な仕組みを理解する。</li> <li>・ 介護給付の種類ならびに予防給付の種類を理解する。</li> <li>・ 認定の申請から、認定調査、審査判定、結果通知にいたる手続きを理解する。</li> <li>・ 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割について理解する。</li> </ul>
②医療との連携とリハビリテーション	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医行為と介護行為について理解する。</li> <li>・ 訪問看護や施設における介護と看護の役割の連携(チームケア)の必要性について理解する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護職が実施できない医行為と実施できる非医行為について調べ学習し、小グループでの討議で根拠を理解する。</li> </ul>
	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リハビリテーションの意味と理念、目的について学習し、具体的事例を通してその分類・過程を理解する。</li> </ul>
③障害者自立支援制度及びその他制度	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者福祉制度の流れ、障害者福祉サービスの再編など制度の理念を理解する。</li> <li>・ 障害者自立支援法の目的、概要を理解する。</li> <li>・ 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定までを理解する。</li> <li>・ 個人情報保護と活用のルールについて具体的事例を通して理解する</li> <li>・ 法定後見・任意後見などの成年後見制度を理解する。</li> <li>・ 判断能力が不十分な人の生活を支援する日常生活自立支援事業について理解する。</li> </ul>
合計	9	
5 介護におけるコミュニケーション技術( 6 時間)		
①介護におけるコミュニケーション	3時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護チームにおけるコミュニケーションの目的と意義・役割について理解する。</li> <li>・ 円滑なコミュニケーションのための共感と受容など利用者理解理解について修得する。</li> <li>・ 言語的・非言語的コミュニケーションについて理解する。</li> <li>・ 利用者・家族が抱き安い心理や葛藤の存在と介護における相談援助の重要性を理解する。</li> <li>・ さまざまな障害者、失語症・構音障害・認知症の人とのコミュニケーションの方法と留意点について修得する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的事例を示し、シミュレーションやロールプレイなどの実技演習でコミュニケーションスキルの習得を図る。</li> </ul>

② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護チームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性について理解する。</li> <li>・ 介護実践においてなぜ記録が必要か、その目的と意義を理解する。利用者の状態を踏まえた観察と記録の重要性と記録の種類を理解する。</li> <li>・ 報告・連絡・相談の必要性や留意点を理解する。</li> <li>・ 情報の共有化は重要であり、会議など具体的方法の場面を通して理解する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視聴覚教材や具体的事例を示し、情報の共有化の重要性や、記録の重要性を理解する。</li> <li>・ 具体的事例やロールプレイなどを通して、報告・連絡・相談について習得する。</li> </ul>
合計	6	
6 老化の理解( 6 時間)		
① 老化に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴を、防衛反応(反射)の変化や喪失体験を具体的事例を通して、理解する。</li> <li>・ 老年期に伴う咀嚼と嚥下機能の低下や体温維持機能の低下・精神的变化を理解し日常生活への影響を理解する。</li> </ul>
② 高齢者と健康	4時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者の身体的・精神的機能の変化と病気との関連、日常生活への影響について学習し、生活上の留意点を理解する。</li> <li>・ 循環器障害・老年期うつ病症状・誤嚥性肺炎・感染症などの疾患による症状や訴えについて理解し対応を理解する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者に多い様々な症状がどのような病気から起こるのかを具体的事例を通して小グループで討議し、日常生活の留意点や対応を発表し、グループ毎に発表後講師が講評する。(循環器障害・老年期うつ病症状・誤嚥性肺炎・感染症など)</li> </ul>
合計	6	
7 認知症の理解( 6 時間)		
① 認知症を取り巻く状況	1時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソンセンタードケアの考え方などを学習し、認知症ケアの基本を理解する。</li> </ul> (演習内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症利用者の行動が理解できるよう、視聴覚教材などや事例を通して小グループで話し合い、認知症ケアの視点を理解する。</li> </ul>
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の定義や症状を学習し、認知症の代表的原因疾患とその病態生理とケアのポイントを理解する。</li> <li>・ 脱水・便秘・低栄養・低運動の防止など、資料や視聴覚教材を活用して学習し、健康管理の重要性を理解する。</li> <li>・ 認知症の代表的原因疾患に対する治療や対応について理解する。</li> </ul>
③ 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問題とみなされがちな行動や心理症状は認知症という病気に伴うことを学習し、適切なケアとは何かを理解する。</li> <li>・ 認知症の利用者の生活環境の意義や生活改善の重要性を理解する。</li> <li>・ 認知症の人の言葉や表情、しぐさから中核症状の及ぼす影響を学習し、それを踏まえた生活支援の具体的な対応や留意すべき視点を具体的事例で示し理解する。</li> </ul>
④ 家族への支援	1時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族の介護の受容過程を理解し、支援のあり方を理解する。</li> <li>・ 家族介護者が経験しているストレスを学習し、ストレスケアと家族介護者の介護負担を軽減するための社会サービスの活用など資料や具体的事例を示し理解する。</li> </ul>
合計	6	
8 障害の理解( 3 時間)		
① 障害の基礎的理解	1時間	(講義内容) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念とICFの考え方を理解する。</li> <li>・ 障害者福祉の基本理念であるノーマライゼーションの概念を理解する。</li> </ul>

②障害医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援などの基礎的知識	1時間	(講義内容) ・ 視覚障害や聴覚、平衡障害、肢体不自由、知的障害者など代表的疾患を理解し、障害などが人の心理や行動、日常生活に及ぼす影響や社会支援について理解する。 ・ 精神障害の症状や特徴を理解し、障害に応じた生活支援の留意点を学習する。病名だけで偏見をもたず、受容的・支持的に接すること、一人の生活者として関わることの重要性を理解する。
③家族の心理・かかわり支援の理解	1時間	(講義内容) ・ 障害の理解や障害の受容支援のあり方について理解する。 (演習内容) ・ 具体的事例を示し、小グループでの検討を通じて、家族の抱えるストレスを学習し、家族をサポートする支援を理解する。
合計	3	

9 こころとからだのしくみと生活支援技術( 75 時間)

	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
基本知識の学習	①介護の基本的な考え方	3時間	・ 介護福祉士の定義を学習し、理論に基づく介護の重要性を認識し、ICF の視点に基づく生活支援と法的根拠に基づく介護について具体的事例を示し理解を深める。
	②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3時間	・ 経験やトレーニングなどによって出来るようになることや記憶のメカニズムなど学習と記憶の基礎知識を習得する。 ・ 様々な感情と意欲の基礎知識を学習する。 ・ 自己概念や生きがいなどについて知識を深め、高齢者の生き方や生活の様子がイメージできる。 ・ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因を学習し、こころの持ち方やからだの状態がこころに与える影響を理解する。
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6時間	・ 介護の専門職として必要な人体各部の名称、人体の骨格・関節・筋の働きを理解する。 ・ 人体の骨格・関節・筋に関する基礎知識を学習し、身体の動きの基本動作を実技演習し、ボディメカニズムを踏まえた介護への活用方法を習得する。 ・ 中枢神経・体性神経・自律神経系の働きを理解する。 ・ こころとからだの特性を理解し、健康チェックの意義やバイタルサインの観察ポイントを学習し、こころとからだを一体的にとらえる重要性について理解する。
生活支援技術の講義・演習	④生活と家事	3時間	(講義内容) ・ 生活における家事援助の必要性を理解し、利用者が望む衣食住の生活支援について習得する。 ・ 家事援助は、利用者の自立とQOLの向上に向けた援助であることを理解する。 (演習内容) ・ 視聴覚教材を活用し、高齢者の生活の状態をイメージできる。要介護度に応じた在宅・施設などそれぞれの場面における生活の具体的家事援助について事例に基づく小グループでの討議を実施し、生活支援を理解する。
	⑤快適な住環境整備と介護	3時間	(講義内容) ・ 住居のあり方をとおして、個人のプライバシーや地域との交流などを学習し、障害者や高齢者にとって快適な環境の維持と安全について理解する。 ・ 福祉用具に関する留意点と支援方法についてイメージする。 (演習内容) ・ 住居の中での、入浴と空間・歩行、移動と空間などの問題点を視聴覚教材を利用して小グループで検討する。また環境整備例を示すなど、具体的に高齢者・障害者特有の快適な居住環境がイメージすることができる。
	⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4時間	(講義内容) ・ 洗顔、口腔ケア、整髪、ひげそり、爪切りなどの支援技術のポイントと手順を習得できる。 ・ 衣類の着脱の意義を学び、安全で心地よい衣服の着脱介助の実際を習得する。 (演習内容) ・ 右片麻痺の場合や寝たままの状態などの事例を示し衣服の着脱などロールプレイや実技演習を通じて実際に展開する。 ・ 洗顔や爪切りなどの整容の支援技術など実技演習を通じて、介護技術を習得する。

⑦移動・移乗に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	8 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活と移動の動作への理解と移動の介助に必要な基本となる知識を学び、利用者の自立にむけた支援を理解する。</li> <li>移動・移乗介助の具体的な介護事例を通じて理解し、ボディメカニズムの基本原理をおさえた安全で安楽な技術を習得する。</li> <li>様々な移動・移乗に関する用具(車椅子や杖など)の特徴とその活用方法について習得する。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>麻痺などの障害のある人のベッドからの移乗の実際や、車椅子や杖を利用しての移動など具体的な事例場面からの実技演習を通じて技術を習得する。</li> </ul>
⑧食事に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	5 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食事をする意味や、食事の支援に対する介護職の意識など基礎知識を学習し、低栄養やからだのしくみを理解する。</li> <li>食事形態などをふまえて安全・安楽に食事支援する根拠を理解する。</li> <li>食事の福祉用具の特徴と誤嚥させない介護のポイントを理解する。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実際に様々な飲食物を使用しての実技演習を通じて摂食・嚥下のメカニズムを習得し、食事の介護支援技術を習得する。</li> <li>快適な食事環境の重要性を理解し安全で安楽で、食べる楽しみとしての意欲を引き出す支援方法小グループでの討論を展開し理解する。</li> </ul>
⑨入浴・清潔保持に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	5 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入浴の意義と効果について学習し、体調の確認や入浴のリスクなど清潔保持に関連した基礎知識を理解する。</li> <li>福祉用具を活用した入浴の介助の仕方や、安全で心地よい入浴介助の基本的な留意点などを理解し、さまざまな清潔援助技術を習得する。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境調整を実施し、全身清拭・全身浴・半身浴・洗髪など使用物品の準備や使用方法など実技演習を通じて、手順を習得し、清潔保持についての知識・技術を習得する。</li> <li>足浴、手浴などの実技演習を通じて、手順を習得し、清潔保持についての知識・技術を習得する。</li> </ul>
⑩排泄に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	5 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>排泄の意義と目的を理解し、排泄のアセスメントをふまえて安全で快適な排泄介助の実際を理解する。</li> <li>排泄障害が日常生活に及ぼす影響を学習し、予防方法などを理解する。</li> <li>排泄環境整備と排泄用具の特徴や活用方法を学び、排泄行動が自立できるための観察や介護方法を習得する。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポータブルトイレや尿器・差込便器を使用しての実技演習を通じて、排泄援助技術を習得する。</li> <li>おむつ交換などの実技演習を通じて、手順や介護ポイントを習得する。</li> </ul>
⑪睡眠に関連したところからだのしくみと自立に向けた介護	4 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>睡眠のリズムや意義を学び、睡眠を阻害するところからだの要因を理解する。</li> <li>安眠の留意点や介護の工夫を事例を通して学習し、具体的援助技術をりかひする。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境整備や寝具・寝衣などを考慮した支援方法の実技演習で安眠のための介護技術を習得する。</li> <li>ベッドメイキングの実際をとおして、安楽な姿勢や褥瘡予防を習得する。</li> </ul>
⑫死に行く人に関連したところからだのしくみと終末期介護	3 時間	<p>(講義内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終末期のとらえ方と終末期介護の基本を学習し、終末期にある人の心理の理解と苦痛の少ない死への支援を理解する。</li> <li>終末期にある人や家族への支援を通して、介護従事者の基本的態度を学習する。</li> </ul> <p>(演習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終末期介護の事例を示し、精神的、身体的苦痛の軽減や、介護職の役割や他の職種との連携をグループワークなど通して理解する。</li> </ul>
⑬介護過程の基礎的理解	3 時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程の目的・意義を学習する。</li> <li>介護過程の一連の展開を通して、介護過程の重要性を理解する。</li> <li>介護過程のチームアプローチの重要性について理解する。</li> </ul>

⑭総合生活支援 技術演習	8時間	(事例による展開) ・ 事例展開 I 「通所リハビリテーションでの I (脳梗塞、左片麻痺) 氏の支援」→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 ・ 事例展開 II 「訪問介護におけるM氏 (脳梗塞、認知症) の支援」 →適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 上記2事例を机上学習し、グループ毎に手順を作成し、実技演習を通しての意見交換や、全体会議で適切な支援技術の共有化を図る。
実習	12 時間	認知症対応型共同生活介護事業所における実習 ・ 実習施設の機能や特徴を理解する。 ・ 施設利用者とのコミュニケーションのとり方や介護に必要な基本的知識・技術・態度など実習をとおして介護の実際と結びつけることができる。
合計	75	
10 振り返り( 4 時間)		
①振り返り	3時間	(講義内容) ・ 研修を通じて学んだことの意見交換や接遇など業務における基本的態度について再確認し学習を深める。 ・ 根拠に基づく介護についての要点など各科目の基礎的事項の内容をテキストにそって事前学習し、再確認を図る。 (演習内容) ・ 今後継続して学ぶべきことについて意見交換や全体会議を通して、振り返りをし、発表後講師が講評する。
②就業への備えと研修 修了後における継続的 な研修	1時間	(講義内容) ・ 介護職という仕事の状況や介護資格制度を学習し、継続学習の意義を理解する。 ・ 研修終了後における継続的な研修について、視聴覚教材や実例を通して OJT や OFF-JT イメージできる。
合計	4	
全カリキュラム 合計時間	130時間	